

越谷市建築協定フォーラムコーナー

ふお〜らむ

第5号まで発行されました建築協定フォーラムニュース「ふお〜らむ」は、今号より「こし-まちだより」に移行しました。

「越谷市建築協定フォーラム」は建築協定地区の住民が中心となり、定期的に情報交換や勉強会を行う場です。この活動を継続的に運営するため、現在は平成24年6月に設立されたNPO法人越谷市住まい・まちづくりセンターが中心となって運営を支援し、「越谷市住まい・まちづくり協議会」の事業活動の一環に組み込まれています。

■越谷市建築協定フォーラム事務局:越谷市都市整備部建築住宅課内 埼玉県越谷市越ヶ谷4-2-1 TEL.048-963-9235 FAX.048-965-0948

越谷市で11番目の建築協定が、本年10月1日に認可されました。



新たに建築協定が認可されたのは、これから分譲される「花と果樹の街 こしがや」全11棟です。事業主である株式会社中央住宅さんによる一人

協定で、越谷市で開発道路として初めてクルドサック(行き止まり路)が許可されたものです。

クルドサックの中心のシンボルツリー(オリーブ)の維持管理など緑に関するルールが多く含まれており、建築協定としては一歩踏み込んだ内容になっています。当初は景観協定を考えていたようですが、越谷市は現在景観計画の策定中で、まだ制度化されていないため、建築協定の締結となりました。ちなみに、他市では建築物ではない緑の管理までを含む内容は、建築協定になじまないと思われるケースもあります。

これも、越谷市建築協定フォーラムがあることによって運営委員会の活動を支援する仕組みができた、地区住民の堅実な管理活動の実績が増えたため、行政(越谷市)も前向きに対応していただけるようになったと思われる。

●協定地区から地域自治会へと広がる協働の輪



こしがや・四季の路管理組合が自治会と協働して行っている「大道・屋敷林の会」では、平成24年度みどりの埼玉づくり県民提案事業の助成を受けて、植樹作業などに取り組んでいます。自らの手で住環境を守り育てる活動が、点から面へと広がっていきます。NPO法人越谷市住まい・まちづくりセンターもアドバイザーとして協力しています。

●出前講座で景観計画の勉強会



こしがや・四季の路では11月18日(日)に越谷市の出前講座として、現在策定中の越谷市景観計画の勉強会を一足先に行いました。ここで建築協定と景観協定の違いを学び、協定地区と周囲の住環境をさらに高度に維持管理する方法を検討していきます。他の地区でも、随時行う予定ですので、お申し込みください。

2012 AUTUMN Koshi-mchi news Vol.1 【越谷市住まい・まちづくり協議会】ニュース 第1号……平成24年11月 こし-まちだより

編集・発行 越谷市住まい・まちづくり協議会 ■事務局 埼玉県越谷市宮本町2-185-12 TEL.048-965-5358 FAX.048-966-7066

10月6日「越谷市住まい・まちづくり大学」開校。

市民のための公開講座「越谷市住まい・まちづくり大学」の開校式が、10月6日越谷市市民活動支援センターにて行われました。越谷市長の祝辞に続き、岸井学長による記念講演では、テンポの良い講義に会場はほどよい緊張と和やかな雰囲気、約40名の受講生の皆さんが熱心に聴講しました。

越谷市住まい・まちづくり大学は、埼玉県共助社会づくり支援事業(新しい公共支援事業)※詳細2面の一環として、共助社会における住まい・まちづくりの担い手(人材資源)の発掘、育成を目指して開校しました。

この市民大学は、主催:越谷市住まい・まちづくり協議会、後援:越谷市、協力:日本大学大学院理工学研究科不動産科学専攻で、日本大学の教授陣をはじめ、都市計画、建築、コミュニティなど住まい・まちづくりに関わる多様な分野の専門家、研究者を講師に迎え、大学での講義と違って平易にわかりやすく説くという連続レクチャーです。約2ヶ月



10月6日開校 越谷市住まい・まちづくり大学 学んで 一緒に まちづくり活動 実力みがいて 地域デビュー 越谷市住まい・まちづくり大学 受講生募集!

間・全8回の短期間に、まちづくりのエッセンスを学べるという貴重な機会に、住まいやまちづくりに関心のある市民の皆さんが参加されました。

岸井隆幸氏(日本大学教授)を学長に迎え、開校式では「共助社会における住まい・まちづくり」と題して記念講演をいただきました。いまなぜ、新しい公共、共助社会なのか?世の中のしくみや、行政と住民の関係が変わってきたぞとは感じているものの、何がどう変わったのか、どう変わっていくのか? まちづくりの今まではどうだったのか、これから

どういう方向へいくのか? 耳にしたことはあるけれど少し難しい言葉や現象を、時系列・体系づけて整理し、わかり易くかみ砕いて講義していただきました。



なお、岸井教授は越谷市とも縁浅からず、建設省時代には越谷市に出向され、1985年4月から3年間越谷市都市施設部に部長として在籍。現在も越谷市都市計画審議会委員、並びに景観専門部会部会長に就任されています。

平成24年度埼玉県共助社会づくり支援事業(新しい公共支援事業)

提案事業がひとつずつ着実に進捗。その成果は、

越谷市住まい・まちづくり協議会とは

「越谷市住まい・まちづくり協議会(代表:若色欣爾)」は、越谷市と、NPO法人や公益法人、社会福祉法人、学校法人等6団体によって設立された組織で、住宅地の良質な住環境の維持管理、市民の景観まちづくり活動、コミュニティ醸成の推進などを支援していきます。協議会では本年6月に、平成24年度埼玉県共助社会づくり支援事業(新しい公共支援事業)に「住まい・まちづくり分野の協働ネットワーク構築と人材育成、及び居住福祉推進事業」の提案をし、厳正な審査の上採択されました。

●事業スタートに向けて…6団体による協議会の設立総会



●新・福祉住宅の調査研究を推進する専門部会「居住福祉部会」



越谷市では空き家15,520軒で空き家率11.36%(平成20年住宅土地統計調査より)となっており、さらに、空き家ではないが空室の多い共同住宅や、単身者の一戸建て住宅など有効利用されていない住宅まで含めると相当数の未利用ストックがあると思われます。

当協議会では、これらの住宅調査を行い、居住福祉という観点から空き家・空き室を有効活用した新・福祉事業を提案する計画です。ことに広い一戸建て住宅に単身居住している方等にヒアリング調査を行い、シェアハウス、シェアルーム等現代版下宿型居住の調査研究を行い共助社会における住まい方提案をまとめます。

多くの市民の皆さんに、アンケートやヒアリングにご協力をいただきました。

【まちづくり協議会】構成団体

- ・越谷市
- ・公益法人 埼玉県宅建物取引業協会越谷支部
- ・日本大学(理工学部根上研究室)
- ・社団法人 埼玉県建築士事務所協会越谷中央支部
- ・社会福祉法人 寛友会 ケアハウス・コスモ越谷
- ・NPO法人 越谷市住まい・まちづくりセンター(協議会事務局担当)

●10/7の越谷市市民活動支援センター祭では、事業プレゼンテーションを行い、「空き家・空き室相談会」も受けました。



埼玉県 共助社会づくり支援事業について

少子高齢化が進み価値観の多様化した社会では、行政の限られた財政のなかで多岐にわたる住民ニーズに応えていかなければならないため、公共サービスのあり方が問われています。従来の行政の枠組みではできないことを実現していくために、いま国と地方をあげて「新しい公共」の担い手を育てるための取り組みが始まっています。

埼玉県共助社会づくり支援事業は、「新しい公共支援事業」に基づき、国から都道府県に支援事業費を交付し、「新しい公共」の担い手となる特定非営利活動法人、ボランティア団体、公益法人、社会福祉法人、学校法人、地縁組織、協同組合等の民間非営利組織の自立的活動を支援する事業を行うことにより、「新しい公共」の拡大と定着を図り、国民の多様なニーズにきめ細かく応えるサービスが無駄のない形で提供され、また、一人ひとりの居場所と出番がある社会を実現することを目的としています。

TOPICS



市民活動支援センターのある越谷ツインシティ。6月にオープンしたBシティに続き、9月にはAシティがオープンしました。



住まい・まちづくり分野の新しい公共の担い手に必要な知識やノウハウを習得した受講生には、越谷市住まい・まちづくり大学の修了証が交付されます。

●6回の講義を経てワークショップ、まちづくりへのエンジンがかかる



住まい・まちづくり大学の修了生(希望者)は、越谷市の有能な人材として“住まい・まちづくり応援隊”に登録し、市内で行われる住まい・まちづくり活動へ積極的に関わっていただくというものです。

広報部会ではホームページをアップしました。



<http://www.koshimachi.com>

来年2月のシンポジウムで報告される予定です。